

Young Entrepreneurs Group of
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

YEG FUKUI



vol. **86**

発行日/平成10年3月25日発行

発行所/福井商工会議所青年部

福井市西木田2-8-1

TEL: 0776-36-8111

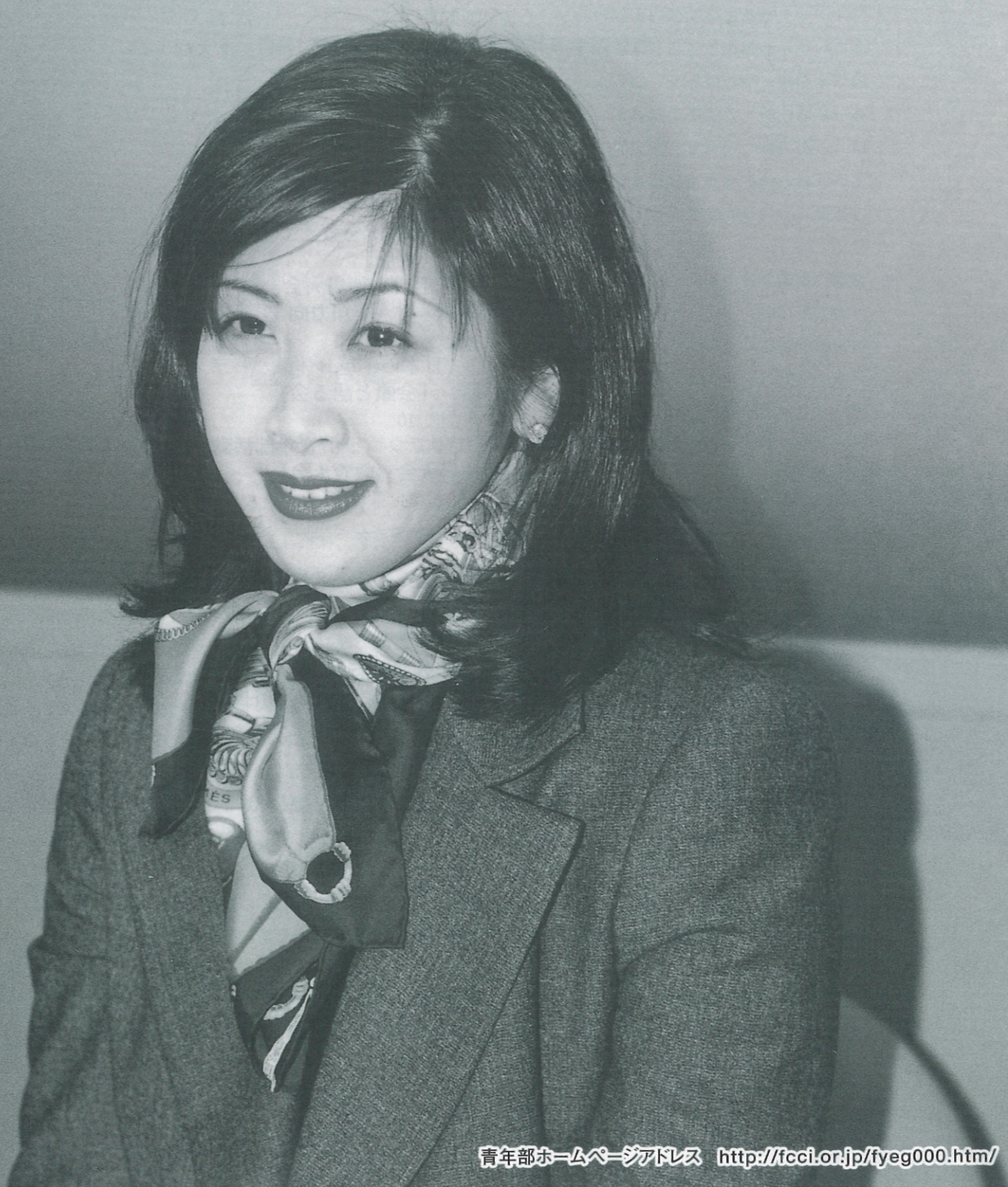
FAX: 0776-36-8588

発行者/三村 貞二

編集者/山岸 寛士

福居

福井商工会議所 青年部会報



◆ The 対談 ◆

プラス・アルファのある企業へのチャレンジを！
日本ショッピングセンター協会 会員相談部長にインタビュー

3

人を育て組織を作れたことが発展の原点。

ゲンキー社長 藤永 賢一氏にインタビュー

4

◆ おじゃまします 例会訪問 ◆

岐阜県高山市 高山YEGに遠距離取材敢行！
大学ラグビー招待戦でおなじみの明治大学OBの会「明大クラブ」

5

インターネット事始め (その4)

6

商青連中央研修ヤングリーダー研修 報告 (その2)

7

◆ YEG活動報告 ◆

10月例会 エアロビクス体力強化セミナー
スポーツ交流会 (ソフトバレーボール大会)

11月例会 「あなたの近況を教えてください」

8

青年部全国大会 徳島大会

12月例会 「定期総会・対人認知力向上セミナー」

9

冬のレクリエーション 日本の年越し体験パーティー

1月例会 「会頭と語る会」

10

2月例会 ビデオでつづる'97青年部活動
県連 会員大会 (敦賀大会)

11

目標は常に全国大会でベスト8に残ること

丸岡高校サッカー部 小阪監督にインタビュー

12

海外旅行

南仏プロヴァンス地方家族旅行 10日間

13

リレーコラム

YEG伝言板

言いたい放題

14

ご結婚おめでとう!!

二世誕生おめでとう!!

編集後記

15

COVER INTERVIEW

97年度ミス福井—吉村智恵子さんにインタビュー

16

表紙：97年度ミス福井 吉村智恵子 さん

プラス・アルファのある企業へのチャレンジを!

日本ショッピングセンター協会 会員相談部長にインタビュー

去る2月3日(火)商工会議所ビル8階、レストラン「ブローニュ」において、日本ショッピングセンター協会、会員相談部長、筒井 才代(つづいさよ)氏へのインタビューが行われました。お相手は田中副会長でした。



■田中 日本ショッピングセンター協会というのは、
どういう団体なのでしょうか。

○筒井 1973年に日本にもショッピングセンター (S
C) を発展させていこうという目的で、設立されまし
た。

■田中 福井もSCがかなり増えてきましたが、今後
はどうなるのでしょうか。

○筒井 金沢に比べて、まだ少ないと思いますよ。大
手が狙っていると思います。ただ、これからは適性な
立地という事が、条件になると思います。つぶれるS
Cも出てきました。逆に出店するテナント側にすれば、
賃料が下がっていますから、チャンスです。

成功には強力なリーダーシップが必要!

■田中 福井の「ピア」というのは、日本でも珍しい
ケースだったと聞いていますが。

○筒井 はい。大手スーパーでなく、地元の協同組合
主導なのは、全国でも初めてでした。それは、強力な
リーダーシップをとられる方がいらっしゃったので、
成功したのだと思います。あの頃は小売業にそういう
方がいっぱいいらっしゃいました。小売業で成功した
店というのは、ほとんどSCに出店しているのではな

いでしょうか。

■田中 我々福井YEGは福井駅前商店街の活性化に
も取り組んでいるのですが。これから商店街を活性化
するにはどうしていけばよいのでしょうか。

○筒井 地方の商店街はほとんどだめになっています
ね。商店街もSCのように、デベロッパー機能がない
とだめだと思います。それにはやはり、強力なリーダ
ーシップをとる人が必要です。しかし、商店街も、以
前はパイオニア精神を持った経営者が多かったもので
すが、二代目の今は、後すら継ぎたがらない人が多い
のが現状です。

■田中 これからのSCというのは、どうあるべきな
のでしょうか。

○筒井 スーパーと違って、ただ儲けるための館では
いけません。街づくりの一環でなくてはいけないと思
います。またテナント側もひとつ所に執着せずに、新
しいSCに移転するといったことも必要になるかも知
れません。

プラスアルファのある企業への
チャレンジを忘れずに!

■田中 最後に、我々若手の経済人に、
なにかアドバイスがありましたら願
いします。

○筒井 これからはどこにもない、プ
ラスアルファのある企業しか残ってい
けません。小売業においては、オンラ
インや通販の時代ですから、規模が大
きいよりも、カタログを置いてあるち
っぽけな店でもいいと思います。また、専門店とは自
分で価格設定ができる店です。アメリカから製造小売
企業が押し寄せて来ますよ。とにかく、チャレンジ精
神を忘れないで下さい。

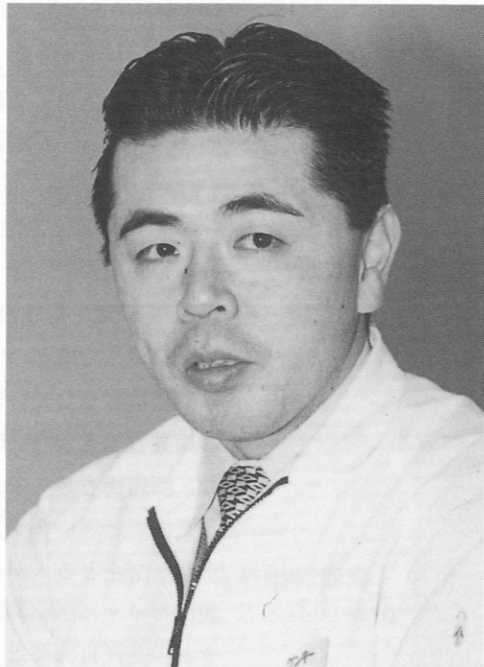
■田中 本日は、お忙しいところ、どうもありがとう
ございました。

文責：メディア委員会



人を育て組織を作れたことが発展の原点。

ゲンキー社長 藤永 賢一氏にインタビュー



青年部インタビュー隊は、ドラッグストアチェーンゲンキー(株)におじゃまして、同社代表取締役社長 藤永賢一氏にお話を伺いました。同社は福井市を中心に、積極的に多店舗展開を図る経営戦略で話題の企業です。

●起業のきっかけは？

東京でのフリーター時代、2年間勤めていた多店舗展開型のドラッグストアでの経験がベースになっています。こういう薬局もあるのかと、おもしろいと思い、福井でもやってみようと思いついたのがきっかけです。実家が福井市内で薬局を営んでいましたが、三代目の私には継がせる意志はなかったため、春江町で自己資金500万、借り入れ1,000万で1店舗目を開業することができました。

●転機を迎えたのは？

最初4年間くらいはだめでした。当初は東京の品揃えを参考にしていたため、地元のニーズに合っていなかったこと、なんでも一人でやってしまう性分だったため、人づくりができていなかったことが主な原因でした。品揃えに関しては地方の店舗を見て廻って研究しました。薬だけでなく、来店されるお客様にとってどういう商品があれば便利かという視点で商品アイテムを増やしていきました。

●人づくりという視点では？

人を育て、組織をきちんと作っていかうとしたことが、発展の原点であったように思います。事業の拡大

と組織の拡大は両輪であると考えています。そのために、会社の経営目標と、個人の人生における目標の方向性を合わせていけるような仕組み作りをしています。また、自由参加による勉強

強会も定期的に開催し、幹部クラスの社員の多くが出席しています。

●今後の目標は？

私は商品価格を従来の1/3くらいにしていきたいと思っています。そのために200店舗は必要であると思えますし、自社ブランドの製品も開発していくことにもなるでしょう。

●ありがとうございました。

○インタビューを終えて

淡々とした口調のなかに、事業に対する情熱と信念がうかがえました。座右の銘は「一生一回」という。悔いなき人生を送りたいという藤永社長の未来に“挑戦”の二文字は消えないことでしょう。更なる発展をご期待致します。

文責：メディア委員会



岐阜県高岡市 高山YEGに遠距離取材敢行！

おじゃまします。例会訪問

3月12日(水)岐阜県高山商工会議所青年部の全体会におじゃまして参りました。会員数140名の大組織で、例会出席者も70名を越える規模のものでした。

今回の例会は、平成9年度活動報告並びに平成10年度新役員紹介及び活動計画の発表でした。

例会及び組織に関して、言わせていただくと、非常にユニークで我々とは全く変わった切り口の組織だと感じました。会員の意識の中に、青年部活動は自分の会社のためにするのであって、イベント関係や街づくりなどに関して一切活動しないという大前提がありました。

年内の活動は、4つの委員会によって構成され、行っている内容も実務的ですがすぐに会社または自分に役に立つような内容になっていました。ちなみに10年度の分科会のテーマは、

- 第1分科会「社員のやる気が出る会社」
 - 第2分科会「21世紀に生きる私たちの環境問題」
 - 第3分科会「ここでしか聞けない企業財務の裏技」
 - 第4分科会「アプリケーションソフトの活用法」
- となっており、この4つの分科会を中心に組織が運営されています。

もちろん各委員会(総務・広報・会員交流・会員開発・インターネット)もそれぞれの事業計画に沿って補充的な活動をしているとのことでした。



今回の例会取材訪問のきっかけになったダイレクトメールアンケートは、高山青年部創立10周年記念事業の一環としてなされ、全国YEG 11,000人中、1,000通の回答を基に、高山の観光ランクや行事ランクなど10項目についての知名度、期待度が集計されました。詳細は“全国YEGからの熱きメッセージ”という報告書に記載されているそうです。

最後に、今回高山YEGの方々には心こもる歓迎を受け、YEGのすばらしさを改めて実感する取材となりました。

山岸 寛士

大学ラグビー招待戦でおなじみの 明治大学OBの会「明大クラブ」

おじゃまします。例会訪問

今回の例会訪問は、いつもとちょっと趣向を変えて、大学OBの会を訪問しました。

「明大クラブ」という名称で、明治大学の卒業生で構成されており、毎月一回例会を催しておられます。創立36周年。30周年には記念事業として、福井市運動公園にて明治大学と同志社大学のラグビー部を招聘して、明治 VS 同志社戦を開催しました。35周年には、同じく明治 VS 早稲田戦を開催し、明大クラブとラグビーの対外PRに務めておられます。

また毎年夏には、知的障害者の授産施設のキャンプのお手伝いをしています。

尚、年齢層が広すぎると若手の意見が出にくくなる

などの弊害があるので、定年は45歳となっているそうです。最近では福井県の明治大学入学者が減少傾向にあるため、明大クラブの入会者も減ってきているそうです。45歳までの明大卒業生をご存じでしたら、紹介して頂きたいそうです。

例会日は2月18日。国際交流会館にて行われました。内容は、(株)福井経済研究所顧問吉岡英治氏による『最近の経済動向について』という講演でした。最近の大手企業の倒産についての見解や、銀行の貸出しの仕組みなど内面の事情を判り易く話され、有意義な1時間は瞬間に過ぎました。

田中 敏夫

インターネット事始め (その4)

～では、作ってみましょうか!～

メディア委員会 清水 榮一
webmaster@fukutoh.co.jp

みなさん、こんにちは。m(_ _)m さあ、連載も4回目を数えました。前回まで、ざっとではありますが、インターネットでなげできそうかということなどを中心にお話ししてまいりました。それで、今回から、情報を発信するというところに着目して、実際のホームページの作成を例にとってお話を進めていきたいと思います。

ホームページを作成するには、一般的には、HTML (Hyper Text Markup Language) という言語で作成されます。どのようなものかといいますと、左下図のようなものです。<>でくくられたなどをタグと言います。このタグには、文字の色、大きさを指定するものや、線や表を作成するもの、また、他のホームページに切り替えることができるものなどいろいろあります。タグではさまれた部分を、そのタグの命令動作で処理するというのが基本です。こういった文書をパソコンで作成すれば、ホームページの出来上がりというわけです。

では、ちょっとオリジナルを作ってみましょう! ホームページで名刺というのも何ですが、自己紹介ということで作ってみました。以下の文章を、エディタやワープロソフトなどで、作成して見て下さい。

そして、保存するときに、ファイル拡張子を、htmlまたは、htmとして下さい。私の名前や住所のところを、ご自身のものに書き換えれば、すぐに自己紹介ページが完成しちゃいます。(^^) ちなみに、斜体部分は説明ですから、書かないで下さい。それから、yegkage.gifは、実際に、青年部ホームページで使用されている画像です。一度、青年部のホームページに行き、この画像をご自分のコンピュータに保存して下さい。この時、注意するのは、保存するところを、上記の文章を保存した場所と同じところとすることです。

さて、いかがですか? ちゃんと文章が作成できましたか? では、ブラウザで表示してみましょう。ブラウザ(ネットスケープや、インターネットエクスプローラなど)を起動したら、インターネットとのダイヤルアップ接続をしている方は、今特に必要ありま

せんで、オフライン(接続しない)でテストしてみてください。そして、そのブラウザで先ほど作成した文章を表示させてみてください。「ファイル」の中の「開く」を使うと良いかもしれません。すると、右下図という具合になります。いかがですか?

たいへん、駆け足の説明になってしまいましたが、(^^)、ホームページを作成することが、それほど、特殊な作業ではないということだけでも理解していただけたらうれしいです。

実は、まだまだ、約束ごとがいっぱいあるんですが、今回は、ホームページを作成するきっかけを掴んでいただけたことを趣旨としましたので、そのあたりの説明は、ほとんど省いてあります。本屋さんに行けば、いっぱい参考資料がありますので、興味のある方は、手に入れて下さい。

さて、今回作成した文章は、まだ、ご自分のコンピュータの中にしかありません。そのコンピュータが、インターネット上のウェブサーバとして認識されるのであれば、良いのですが、そうでない場合は、情報を世界にむけて発信できたわけではありません。ウェブサーバ上に、これらの文章を置く必要があります。

ところで、ホームページを作る上で、もっとも早道があります。それは、すでにあるものを、作り替えるというやり方です。ウェブ上を散策すると、さまざまなホームページがあります。かっこいいとか、きれいだとか、気に入ったページがあれば、そのページを保存して、エディタでのぞいて下さい。すると、今日、ご説明したHTMLがびっちり書かれています。そこを自分に合った形に書き換えていく、例えば、名前や会社名を自分のものに書き換えるとか、画像のデータを違うものにするとかです。すると、とりあえずは、自分のホームページができあがります。それを踏まえて、参考資料などを片手に、いろいろいじってみると、さらにすばらしいホームページができあがっていくでしょう。また、最近では、ホームページを作成するソフトが、比較的安く、多機能なものが開発されています。これらのソフトを利用することも、良い方法かもしれません。さあ、さっそく、チャレンジしてみれば、いかがでしょうか?

<HTML>	←ここから、</HTML>までが、HTML の文章であるという意味。
<CENTER>	←</CENTER>までを中央に表示する。センタリングする。
<HR>	←線を引く。
	←yegkage.gif を表示する。画像データの表示。
<P>	←段落を変える。
いーい。みなさん、よろしくねー! v(〃)v 	←までを、大きさ5で表示。 は、改行の命令。
<P>	
清水 榮一 	←色をつける。大きさ7で表示。
<P>	
<HR SIZE="10">	←太さ10の線を引く。
<P>	
福井市花堂北2丁目 14-32 	
TEL 0776-36-2315 / FAX 0776-36-2316 	
e-mail webmaster@fukutoh.co.jp 	
↑表示をクリックすると、メールソフトが起動して、メールを送ることができる。	
URL http://www.fukutoh.co.jp/ 	
↑表示をクリックすると、www.fukutoh.co.jp にジャンプする。ハイパーリンク。	
<P>	
<HR>	
</CENTER>	
</HTML>	

ブラウザでひらくと
→
右のようになります



商青連中央研修 ヤングリーダー研修 報告

【その2】 報告 竹内 幹男

●第2回●
・日時 H9年7月12日～13日 ・場所 大阪
・テーマ 「自己・自社再発見」・参加者 約150名

■第1講 「自社企業勝ち残り戦略」
タナベ経営 木村吉男氏

主にベンチャー化支援を担当している氏の本からは、「起業家精神」にこだわるYEGというものは目的の明確なすばらしい集まりであると認識しているとのこと。

氏は、ベンチャーといっても必ずしもマルチメディアやインターネットとは関係なく、「ベンチャー化=活性化・元気印=オンリーワン企業指向」と定義付けており、具体的には、長浜の(株)黒壁や、部品メーカー/酒造メーカー/葬儀業等での事例をあげて解りやすく説明された。まとめとしては、ES (社員満足度)、CS (顧客満足度)、KS (会社満足度という意味らしい)の3つの満足度をあげながら、高い目標を持ってチャレンジしていくことであると結ばれた。

■タナベ経営式性格能力判定
まずは己を知らなければならぬということで、各自、タナベ経営独自の判定テストをおこなった。(結果は翌日)

- 実習 「起業家の診断シミュレーション」
- ①「起業家としての現状認識」
- ②「自社の中期計画策定」
- ③「ベンチャー化戦略と実行計画構築」

タナベ経営と日経新聞社が共同で制作した「日経CD-ROM 経営診断」というソフトに沿って、各自が経営者としての自己と自社の現状分析を行い、個別分野毎に今後の対策について役立つデータを得た。(一人一台のパソコンはないので実際は紙ベースでしたが。)



具体的には「プロ経営者度」「ビジョン」「顧客満足」「社員満足」「ベンチャー度」の五大分類のバランスから自社の弱点を明らかにし、その改善策について細部の項目毎にチェックするというものだった。なじみの薄い経営学用語や略語もあったがそれらには解説もあり全体的には理解し易いもだった。しかし基になるものが本人の主観的な項目が多いので、そういう意味では必ずしも客観的な診断ではなく、普段の当人の問題意識を顕在化した作業とも言える。

■第2講 性格能力判定結果と今後の自己改善案
各自に前日の判定結果が配られ、その結果を踏まえて今後自己啓発の心構えやその方策に講義があった。自分の性格的な特徴や強み弱みが再認識でき良かったと思う。性格に良い悪いはなく、要は自身できちんと認識できるかどうかのこと。また、誰しも「満足・安心か不満・不安か」という考え方の二面と「積極的か消極的か」という行動の二面を組み合わせた4つのパターンを順に繰り返しており、良い状態を長く保つよう努めることが大切。また満足かどうかの考え方が態度・行動に先行すること。(要するに、満足で積極的という良い状態からみて、心理的な不安が増しても直ぐに行動は控えずカラ元気でも装うべきということ。また逆に不満で消極的という最悪状態を早く抜けるにはまず考え方を要するべきだということか。)

■第3講 「経営診断」シミュレーションのまとめ
今回の「経営診断」についてまとめの話があった。各分析項目毎の強み・弱みの認識も大切だが、全体的にどの程度の問題意識を維持できるかが重要である。楽観的過ぎても悲観的過ぎてもいけない。(基本は「悲観的に準備して楽観的に行動する」であるが。)その他、タナベ経営の経営者クラブの話等があった。

■交流会
1日目の研修終了後、場所を移動して交流会があった。今回は立食でなく業種毎にテーブルに座っての方式だったこと、それに前回知り合った方々との再会ということで、落ち着いた雰囲気が進んだ。

10月例会 エアロビクス体力強化セミナー (H9.10月22日)

去る平成9年10月22日(水) 19時より、福井コンピュータ新社屋「ウィンラボラトリー」体育館において、水口敬美先生をお招きして、エアロビクス体力強化セミナー実技が行われました。30名あまりの参加でした。10月度例会テーマ「チャレンジ」のもと、日頃の運動不足解消のためと企画しました。

初めは講話をいただけるのかなと思いましたが、いきなりレッスンということで、少々とまどったのは私だけでしょうか。

初めは「ドタドタ」していた足どりも、レッスンを

進むうちに揃ってきた感じがあり、先生の声にも熱が入ってきたようでした。

約一時間の中で、1~2分の休憩を3回というなかなかハードなレッスンでしたが、途中リタイヤする人もなく、心地よい汗と疲労感を感じたのではないのでしょうか。

会員のみなさん、これを機会に、できるだけ体を動かす企画に参加してみませんか。

畑中 博

スポーツ交流会(ソフトバレーボール大会) (H9.10月15日)

去る平成9年10月15日(水) 北陸電力体育館「フレア」にて、スポーツ交流会が開催されました。今年も昨年と同様、「雨天でも実施可能な競技が望ましい」という理由で、ソフトバレーボール大会となり、福井市商工労働部、福井県繊維産元(協)青年部、当青年部Aチーム、Bチームの計4チームによるトーナメント

方式で争われました。なお、会場の選定では、言うまでもなく北陸電力の高瀬会員にご尽力いただきました。この体育館は新築されたばかりで、設備も整って



おり、隣のコートでは、全日本一部リーグの北陸電力ハンドボール部の練習風景を垣間見ることが出来ました。

さて、白熱したラリーの応酬(?)と息の詰まるようなゲーム展開(?)で、例年のとおり当青年部の圧勝かと思いきや、和気あいあい、舌戦でリードした当青年部Bチームが辛くも接戦の末優勝の栄冠を手に入れました。

表彰式では、華麗なる珍プレーで福井市商工労働部のAさん、当青年部の田谷会員(他各チーム一人)に個人賞が授与されました。当日参加されたみなさん大変お疲れさまでした。

11月例会「あなたの近況を教えてください」(H9.11月26日)

去る平成9年11月26日(水) 商工会議所ビル地下国際ホールにおいて、11月度例会「あなたの近況を教えてください…カクテルの夕べ」が行われました。

これはテーブルトークを通じ会員の近況、青年部活動の感想、今後の夢などについて語りあい、相互理解を深めようという企画でした。

カクテル飲み放題ということで、酔ってしまいあまり覚えていませんが、終始和やかな雰囲気でした。我々のテーブルでは、人生哲学を語ったり、女性観を

語ったり、これからの企業、そしてYEGはこうあるべきなどを多く熱く語り合いました。それぞれのテーブルでは、話が違う方向にそれたりして、盛り上がっていたようです。

日頃のYEG活動では、なかなか腹を割って話すということはありませんが、酒を飲みながらのまじめな語りあいは、貴重な体験でした。

佐々木 茂

青年部全国大会 徳島大会 (H9.11月21・22日)

“阿波踊り”と“サンバ”と“ねぶた”で乱舞!!

去る平成9年11月21・22日徳島市にて、第17回商工会議所青年部全国大会徳島大会が開催されました。

当青年部からは、10名が参加しました。私は徳島どころか、四国も初めてで、今年は大変楽しみにしておりました。初日にあった分科会も、ワープロソフト[一太郎]でおなじみの(株)ジャストシステムを蹴って阿波の文化探訪巡りに参加。四国八十八カ所の1番札所「発願の寺」で念入りにご祈願してきましたので、今年はずっと良い年になると信じております。

また懇親会では阿波踊り、ねぶた踊り(次年度青森開催)、サンバの大競演が会場中央に配したステージを囲み、会場は一気に熱を帯びて狂気乱舞。

秋深まる徳島は踊りの国の名のごとく、くつろいだ雰囲気でも迎え入れてくれました。

吉野 弘美



12月例会 「定期総会・対人認知力向上セミナー」(H9.12月17日)

平成9年12月17日(水) 定期総会が国際ホールにて開催されました。そこで、新年度役員案、組織案、委員会職務分掌案、基本方針案が提案され、すべて、可決されました。

その後、12月度例会として、対人認知力向上セミナー「あなたは誤解されている？」が行われました。これは、某大手銀行の人材開発に取り入れられているもので、たいへん権威ある物です。

5人くらいのグループになり、ひとりひとりの好きな色、好きな食べ物、趣味などをその人のイメージどおりに選んでいき、答え合わせをして、点数をつける

ゲームです。これによって、誤解されやすい人や、ひとを見る目のない人、ひとに悟られやすい人など、自分のタイプがわかるというものです。

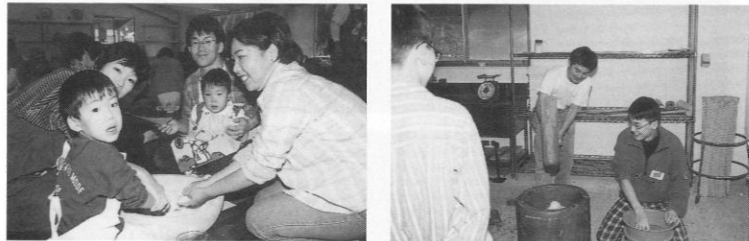
難しいものかと思っていましたが、トランプゲームか麻雀でもやっているように楽しく、たいへん盛り上がりました。あの助平な人が実は…とか、あのまじめそうな人が、実はそんな事を…など、他人が描いているイメージと実像とのギャップの大きさに、驚きを感じた人は多かったことでしょう。

佐々木 茂

冬のレクレーション 日本の年越し体験パーティー (H9. 12月13日)

今回の青年部の冬のレクレーションは、さる12月13日(土)に今庄町にある「リゾートたくら」「今庄365温泉やすらぎ」において、2部構成で行われました。例年のクリスマス会の企画にはない、昔ながらの日本の年末年始の雰囲気を味わってらおうという趣旨で、委員長以下皆で知恵を出し合いました。

まず、午前9時に「リゾートたくら」に到着。ここで「そば打ち」「もちつき」体験が行われました。これを体験したことのある人は以外に少なく、皆一様に悪戦苦闘を強いられていましたが、それでも子供のため家族のために頑張るお父さんの姿が光っていました。もちつきはつく人とこねる人の息がなかなか合いませんでしたが、おもちがつきあがると、まわりから大きな歓声と拍手が。出来上がったおそばとおもち



を、家族みんなでとても和んだ雰囲気食べていました。

そして、「温泉やすらぎ」に移動してから「家族忘年会」がスタート。私が司会を務めさせていただき、参加したご家族の方々にあれこれ(特にお父さんのことについて)質問をさせていただきましたが、かなりつこんだユーモアあふれる質問の連発にお父さん方もハラハラさせられたことだったと思います。

その後、「この人だーれ」ゲーム、ピンゴと続き、最後にサンタ・トナカイ・ネコに変装した執行部の方々から、コマや凧といった純日本風の玩具を子供たちにプレゼントして最後を締めくっていただきました。



青年部に所属する会員相互の親睦を図るのが、我が会員交流委員会の主たる活動であります。それが出来るのも家族みんなが温かく見守ってくれているおかげなのだ改めて実感して帰途につきました。

会員交流委員会 五十嵐 嘉紀

1月例会 「会頭と語る会」 (1月29日)

去る1月29日(木)1月例会として恒例の「会頭と語る会」が催されました。

今年は市橋保会頭はじめ、福井商工会議所より田原室長、野村部長にもおいでいただきました。テーマは「会頭と語ろう現在、過去、未来」と題しまして、最近の経済界の諸問題を、会頭流に指摘していただき、今後の青年経済人としての我々が進むべき道を指南していただくというものです。

当日は、例年とは少し趣を変えて、青年部よりの「イエスノー・チェック」と題した質問書に対して、会頭のご意見を頂戴し、討論する形で進めました。活発に意見交換ができるよう、ワインを酌み交わしながらの進行でした。質問の中身は、例えば「平成10年は9年より景気が良くなる?」「福井県在住外国人労働者は今後も増加する?」「青年部活動は有意義である?」「長野オリンピックで、日本は金メダルを10個以上獲得する?」etc.と多岐にわたるものでした。一つ



つの質問に対し会頭、室長、部長、青年部の間にぎやかに討論が進みました。特に会頭には経済界の現況、展望など過去の経験から、具体的な話を交えた貴重なお話を数多くいただきました。

また用意したワインも、お気に入りの様子で、ワイン健康談議に花を咲かせる一幕もあり、より会頭との親近感が増したように思われました。

最後に会頭は我々に対して、「常に前向きに明るく物事を考え、積極的に経済活動、青年部活動に取り組んでほしい」という言葉を残して閉会の運びとなりました。

吉岡正修

2月例会 ビデオでつづる'97青年部活動 (2月18日)

2月例会は、さる2月18日国際ホールにて、2部構成で行われました。まずはメディア委員会の活動の一つでもあった、一年間を通した青年部活動をまとめたビデオ上映会。桜ハートランド・時代行列・サンバカーニバル等イベントの映像では笑いを誘い、役員会での真剣な討議では緊迫感を醸すといった演出の効いた見事な作品で、最後は一同大きな拍手が起きました。撮影・編集を担当された清川会員に感謝!

続く第2部は、以前青年部事務局を担当いただいた会議所職員の、鈴木芳暢氏・岩崎正夫氏によるセミナーでした。

鈴木氏の「地方都市活性化の大きな動き」では、地方分権が進む中、商工会議所としても中核市指定を目指し積極的な活動を推進していること等、これからの福井を活性化させるための変革の時が近いことを感じました。

岩崎氏の「駐在員を通してみた



中国」では、中華風居酒屋チャイナジャムさんからの飲茶を食しながら、大変興味深い話を楽しみました。中国への旅行をお考えの方は岩崎氏へ相談されてはいかがでしょうか?きっと良いアドバイスをいただけることと思います。

今回の例会もそうですが、今まで知らなかった情報や、知識を得ることは単純にうれしいことです。これからも積極的に例会に参加して、更なる知識人を目指したいと思います。

岩崎 晋

県連 会員大会(敦賀大会) (2月14日)

第14回福井県商工会議所青年部連合会・会員大会<敦賀大会>が、敦賀単会主管により、去る2月14日(土)プラザ萬象にて「VOICE~声を出そう~」をスローガンに開催されました。

福井会からは三村会長以下20名が登録、バスにて会場に向かい、13時からは臨時代議員総会が開催され県連新役員が決定(会長は武生単会の奥山義治氏)、その後13時40分より式典、県連会長、単会々長挨拶に続き来賓祝辞をいただきました。その中で我々のOBでもある河瀬一治敦賀市長の「問題をひとつづつクリアし、願いをカタチに変え21世紀に翔たいて下さい(何処かで聞いたことがある!）」という言葉がいまさらながら印象的でした。

その後は、県連主催による各地区の合同例会報告発表、そしてデーブ大久保(大久保博元)氏による記念講演「私の野球人生」となり、貧しかった少年のころの話から、現在に至るまでの野球の話を織り込みつつ、愛情を持ち人と接することの大切さをユーモアたっぷりでご講演いただきました。

会場を変え、第2部「達人」ではゲームを通じ「危

機管理」と「もてなし」の心を研修、そしていよいよ最後、お待ちかねの大懇親会となり、なんと河瀬敦賀市長がアロハシャツを着てエレキギター・バンドで登場、市長自ら弾くベンチャーズの「テケテケ」サウンドに会場は大いに盛り上がり、和気あいあいとした中に閉会しました。

橋 敏夫



▼ミュージシャン市長 河瀬一治敦賀市長



▲デーブ大久保氏

目標は常に全国大会でベスト8に残ること

丸岡高校サッカー部 小阪清吉監督にインタビュー

今回は、サッカーで丸岡町、いや福井県を全国に知らしめた、丸岡高校サッカー部の小阪清吉監督と、田中義乃次年度会長との対談を、企画しました。大変お忙しい中、小阪監督には、一時間という時間をとっていただき感謝いたします。

■田中 次年度会長 本日は、ありがとうございます。早速ですが、全国大会では、一戦一戦勝ち上がっていましたが、選手たちの気持ちの変化はどんなものでしたか。

○小阪監督 そうですね、勝ち進むごとに、選手たちに自信ができましたね。そして、やることをきちんとやれば勝てるという意識が出てきましたね。その意識を高めることに、私としては、苦労しましたね。

■田中 丸岡町は、町おこしの一環として、サッカーに力を入れています、その辺りの環境という面はいかがですか。

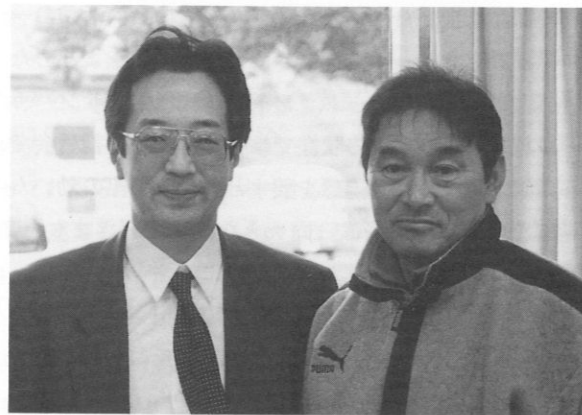
○小阪監督 やりやすいと言えばやりやすいですね。優秀な指導者の方もいらっしゃいますし、環境もいい。しかし、スポーツの多様化及び他の地区のレベルアップによって、丸岡サッカーの絶対的地位は失われつつあります。



■田中 以前、ヴェルディ川崎の柱谷氏とのインタビューで、プロは教えられるのを待つのではなく、盗めとおっしゃっていましたが、小阪監督の指導法を、お教え下さい。

○小阪監督 戦術的なこと技術的なことは、主として、練習中で選手自らが、考えて行動することが多いですね。たまには注意もしますが…

サッカーも組織は必ず必要です、その中で三人位のスタープレイヤーがいるといいですね。



■田中 一般社会でも同じですが、能力を引き出すことが大切だと思いますが、その点いかがでしょうか。

○小阪監督 サッカーでは、3Bという三つのB、ボールコントロール、ボディバランス、プレーンが大切だと言われていますが、特に、プレーンを引き出すことに力を入れています。相手とのかけひき、状況判断等、賢人でないと伸びませんね。全国レベルでは…。ポジションに合った考える能力を引き出したいですね。

■田中 キャプテンの要素、つまり「リーダー」としての役割についてはいかがでしょうか。

○小阪監督 うちの、キャプテンは、選手同志で決めるのですが、だいたい私が思う人物になっていますね。何事もキャプテンを通してやることにしています。

最近の子供は、相手に言いたがりませんね。嫌われないのでしょうかね。キャプテン（リーダー）は、それが言える人になっていますね。そしてキャプテン自身のプレッシャーになりますからね。

■田中 最後に、今後の目標をお聞かせ下さい。

○小阪監督 目標は、常に全国大会でベスト8に残ることですが、それ以上に、教えた生徒が社会に出て立派になることが一番うれしいですね。

■田中 本日は、青年部のために時間をとっていただきまして、ありがとうございました。今後のご活躍を期待しております。

予定の15分間を大幅に延長していただき、心のこもったインタビューになったと思います。

小阪先生が一番楽しいことは、「昔の教え子と一杯やること」と言うことで、三村会長をはじめ、青年部で小阪先生の教え子の方は、是非連絡を取ってあげて下さい。

南仏プロヴァンス地方 家族旅行 10日間

真木 康至

中学1年になった息子と小学5年の娘と、私たち夫婦で「南仏プロヴァンスの素顔とコートダジュール・パリ10日間」正月2日に出発した。午前11時50分発JALパリ行きノンストップ便にて空路ニースへ。飛行機内でもらえる子供用のおもちゃに、息子はもう興味を示さなかった。寒波のため乗りつぎ便が3時間あまり遅れたせいもあり、ニースのホテルに着いたのは、出発してから20時間余り後、現地時間2日深夜0時頃だった。（時差は8時間）明日からの、まだ見たことのない南仏プロヴァンスの旅を思いめぐらしながら、私たちはベッドにもぐり込んだ。

ニースでは、シャガールの作品を200点以上集めたシャガール美術館を見学。油絵はもとよりステンドグラス、中庭のモザイクなど現地で見られない作品を見られて、たいへんよかった。ニースにある、ルノアールのアトリエは、住んでいた住宅をそのまま保存してあり、ルノアールのすばらしい作品が、このアトリエにて描かれたかと思うと、感慨深い気がした。アンティブではピカソ美術館へ。子供たちはユーモラスな絵画や彫刻、版画など、ピカソ独特の世界に笑いながら、また興味深そうに見入っていた。またセザンヌがよく描いたサント・ヴィクトワール山は、添乗員の方も初めてという、雪の積もったサント・ヴィクトワール山であった。ゴッホが描いて大変有名な「アルルのはね橋」は画集などで何度も見ていて「ここがそうなのか」という感じで、確認作業みたいにならないうちに。

南仏プロヴァンス地方は、イギリス人のピーター・メール著「南仏プロヴァンスの12ヶ月」が出版されてから、世界的に有名になったが、フランスではあまり売れていないそうで、なぜならフランス人は早くリタイアして、プロヴァンス地方に移り住んで余生を過ごすのが夢だそうです。バスで移動していても、ほんとに自然で美しいプロヴァンスでゆったり絵でも描きながら生活できたらいいなあ～、しみじみ思った。

6日目には、ワインの試飲をフランスローヌ南部で最も有名なシャトー・ヌフ・デュ・バーブで楽しんだ。そこはちょっとしたワインの歴史とか、作り方、昔の道具や各種ワイン抜きなどを展示してあって、一通り説明を聞いてからカーブ（酒蔵）での試飲となった。色の見方、香りの嗅ぎ方、グラスの回し方などを



ゴッホの愛したカフェ(プロヴァンス)

聞いて、白ワイン一種と赤ワイン2種をごちそうになった。昼食前の空きっ腹だったので酔ってしまったし、おみやげにワインと地元の名産のお菓子も買った。

7日目には、アビニョンよりフランス新幹線TGVに乗り、ノンストップでパリへ。車内から写真を撮ったがTGVが早すぎるせいか、うまく写っていなかった。

パリは14年ぶりだったが（新婚旅行で初めての海外だった。）懐かしく感じたというよりほとんど忘れていた。凱旋門の上に登ってパリの街を眺めていたら、だんだん新婚旅行でのことなどを思い出し、子供たちも交えて、こうしてまたパリに来られたということが、とても素晴らしいことに感じた。（自分で自分をほめました。）

パリは2日間とも自由行動だったので、印象派の作品の宝庫といわれるオルセー美術館にてゴッホ、ルノアール、セザンヌ、マネーなど印象派時代の作家を中心に見て回った。私たち夫婦は油絵が見るのも描くのも好きなので、帰国してからも、思い出深い風景とか印象を油絵に描いています。旅行と制作、展示と二度も三度も楽しめます。

ここ5年間でイタリア、スペイン、フランスと旅行しましたが、それぞれに素晴らしい印象を受け、お金の換算できない体験ができ、家族のチームワークもより密接になってきたように思います。子供たちも親の財布の中身は知らないの、もう既に次のルートを主張しています。（だんだん自分でも行きたくなる間隔が短くなって、借金してでも行っちゃおうかななんて思っている。コマッタぞ。）

皆さんもぜひ、ご家族でお出掛け下さい。絶対、いいヨ～。（あたりまえか）

私の好きな言葉

大鎌 利規

竹内 均さん（地球物理学者・雑誌「ニュートン」編集長）の言葉で、「勤勉・正直・感謝」の言葉が好きです。この三つを実行すれば、理想の人生、ひいては幸福につながると思っています。

【勤勉】というのは、とにかく働くことです。妙な理屈など言わず、とにかく現実に関与するように働くことです。世の中は絶えず変化しています。この変化に適応していかなければなりません。多方面の本を読んだり、人と交わったりして、そこで得られたものについてあれこれ考えたり、活用して現実の役に立つ働きをします。

会議ばかりして実際に行動に移さなければ、働いていることにはならないと思います。

【正直】というのは、約束したことは実行することです。実行できそうもないことは、約束しない。「忙しい、忙しい」と言う人ほど結局、何の仕事もしていないと言うことがあります。そういう人をよく観察すると、実行できそうもないこと

をむやみに約束しています。世の中には、義理人情といったことがあります、その中で「できそうもないことを約束しない」という【正直】を実行するのは、なかなかむずかしいものです。しかし、できるとおもった約束は、キチッと果たします。この言葉は自分のことのように、心に響きました。

【感謝】というのは、ひとことで言えば、謙虚ということ。【勤勉】と【正直】によって成功を得たとしても、それを自分のせいにはしないこと。この成功を得るうえで、わたしを助けてくれた人たちが、世の中の動きに、感謝しましょう。

この三つの要素がすべて備わってはじめて、理想の人生になると思います。理想の人生に向かって、形からでも入っていき、実行していきたいものです。

次回は、末本要一さんをお願いします。

リレーコラム

ご結婚おめでとう!!

●清水多恵治さん 入籍日：平成9年9月29日
奥さま：恵美子さん



●末本 要一さん 入籍日：平成9年11月1日
奥さま：民子さん

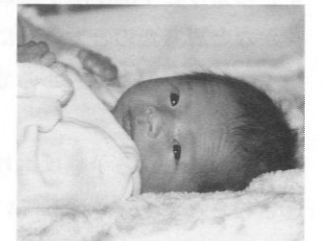


二世誕生おめでとう!!

●高間 貞行さん
かずき
長男 一輝ちゃん
平成9年12月15日生



●前田 裕之さん
のどか
長女 和ちゃん
平成9年12月29日生



YEG 伝言板

次年度例会経営委員会開催前に、趣味の時間を15名程度集まれば、FFスクール（洋式毛鉤釣）をしようと考えています。実際の釣り、竿造り、毛鉤づくりetc.いろいろやってみましょう。ゴルフだけではいけませんよ。

連絡先：橋 敏夫
TEL：0776-28-6500まで

今年度当事務所の重点業務は人事制度（賃金制度・能力給制度）の導入のお手伝いとなりました。ぜひご検討ください。また導入を検討中の方のご紹介もお願いいたします。人の能力を引き出すには今後必ず必要となるものです。

<橋 敏夫>
連絡先：橋社会保険労務士事務所
TEL：0776-28-6500

言いたい放題

●お行儀が悪い
作法・ルールなんていうことはちょっとおいといて、みんな我慢できない、快楽を求めすぎる、すぐに今、と言いつぎる。

そのいい例が、ノドが乾けば自販機ですぐジュース、空き缶ポイ!

図書館へ行けばジュースがちゃんと机の上に。パーティーでは乾杯前にもう飲んでる食べている。アルコールが入っても知らんぷり、飲酒運転。もっと、お行儀よくしようよ!

匿名希望

編集後記

今回は、出来上がりの表紙を見て、「URALAに勝った!」とメディア委員一同爆笑。表紙もさることながら、内容でも、経済人のインタビューから旅行記まで、バラエティに富んだおもしろいものになったのでは、と一同自負しております。

メディア委員会は、山岸委員長を始め、私の他約半数のメンバーが来期も続投することになりました。今後ともよろしくお願ひいたします。

メディア委員会 副委員長 福岡 靖

『地球環境に配慮しない企業は存続しえない』

ペットボトル・リサイクル・ユニフォーム
「エコールクラブ」北陸代理店

株式会社 タヤコ

福井市問屋4丁目205
TEL(0776)27-1131
FAX(0776)27-7083

A&S
MULTI-COMMUNICATION
COMPANY

株式会社 エーアンドエス

〒918-8104 福井市板垣3丁目1510番
TEL.0776-36-9300(代) FAX.0776-36-9350
デザイン制作部直通 TEL.0776-36-9301 FAX.0776-36-1711
ウララ編集室直通 TEL.0776-36-9175

“いろいろな方と知りあえて良かったです” 97年度ミス福井—吉村智恵子さんにインタビュー



今回は、昨年の4月より“97年度ミス福井”として活躍してこられた吉村智恵子さんにお話を伺いました。お相手は、当青年部メディア委員会。

■まず、ミス福井に応募された動機はなんですか。

○吉村さん：テレビで色々募集案内をしていたのですが、ちょうど年齢制限が25歳ということで、今年が最後かなと思ったのと、何かにチャレンジしてみたいと思っていたところだったので、軽い気持ちで応募いたしました。

■ミス福井になる予感がありましたか。

○吉村さん：全然予想していなくて。審査会場で友達になった方と、自信がないから早く帰りたいねと話をしていただけです。選ばれた時には呆然としてしまいました。

■どのような活動をなさっているのですか。

○吉村さん：ほとんどが福井の観光PRです。やはり福井に比較的近くて観光に来て頂きやすいということで、大阪、京都、名古屋には2～3回ずつ参りました。

■どんな風にPRするわけですか。

○吉村さん：例えば、名古屋でしたら、ちょうど名古屋祭りが開催されていた時だったので、福井のブースをだしてステージでPRをしました。お市の方の衣装を着て、寸劇みたいな形で福井の特産品の紹介をしました。ミス福井になるまでは、福井の特産品といっても漠然とした知識しかなかったのですが、これを機会に勉強してみようという気持ちになりました。ちょうど名古屋の時には越前焼のPRがありましたので、宮崎村まで行って陶芸館で質料を頂いたり、また実際陶芸をやってらっしゃる方にお話を伺ったりしました。

■お市の方といえば時代行列ですが、いかがでしたか。

○吉村さん：とにかく、天気が晴れてほしいと祈っていました。願いが通じたのか本当に当日は晴れました。たまたま前日に、柴田勝家公のお墓が西光寺にあるというお話を伺っていたので、当日の朝、晴れたお礼と行列の安全祈願を兼ねてお参りに行ってきました。勝家公役は渡辺裕之さんだったのですが、食事の時にご家族の写真を見せてくださったりして、すごく気さくな方で楽しかったです。



■大変だったことは何かありますか。

○吉村さん：11月に姉妹都市の熊本に行った時、丸一日10分刻みでマスコミ各社をまわったんです。緊張と疲れで精神的に限界に来ていたのですが、常にこやかにしていなければいけない。そのギャップがとても辛かったですね。それで、その日の最後にテレビの生

放送でPRする仕事があって。打ち合わせも何もなくて、本番の何分か前に現地入りして、人通りのあるアーケードでいきなり30秒でPRしてくださいと言われてたものですから、何をどう言えば一番PRになるのか、頭の中がパニックになってしまって…ということがありました。それが一番辛かったですね。

■では、一番良かったことは何でしょう。

○吉村さん：それはやはり、色々な方と知り会えたことですね。

■今後のご予定は。

○吉村さん：今年は25歳になるので、結婚を目標にしたいと思っています。

■どなたか、意中の方はいらっしゃるのですか。

○吉村さん：(笑って) いないんですよ。

■では、良いお相手が見つかりますようにお祈りしています。後少しの間ですが、ミス福井のお仕事頑張ってください。本日は、ありがとうございました。

